

[図書館] 経営計画書（総括表）

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H30 度計画額（単位：千円）		H30 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	図書館事業	B	29,272	88	2.8	6.4
2	人が集まる空間づくり	B	280	0	0.2	0
合 計			29,552	88	3.0	6.4

■特記事項

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	図書館	No.	01
事業名	図書館運営事業		
総合計画の体系	基本目標	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	基本施策	(1)	生涯学習の推進
目的	<p>誰もが生涯にわたって、心豊かな充実した人生が送れるように、利用者のニーズに合った資料・情報の収集、提供に努めると共に、新たな本との出会いの場を創出し、図書館サービスの向上を図る。</p> <p>小さな時から本に身近に触れ、本に親しむ習慣を育み、読書活動の推進に努める。郷土資料を“文化財”として守り、後世に伝える。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算・決算及び経理に関すること ・ 図書館の調査及び統計に関すること ・ 図書館の広報に関すること ・ 図書館年報の作成 ・ 図書資料の貸出・返却に関すること ・ レファレンス(参考調査)に関すること ・ 図書館資料の選書に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土資料の収集・保存等に関すること ・ 読書活動の推進に関すること ・ おはなし会・上映会等のイベント開催に関すること ・ 図書館資料の分類・整理及び目録作成・保管に関すること ・ その他必要な業務 	
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会全体として本離れの傾向にあり、大口町の図書館利用者数も平成 21 年度をピーク (53,949 人) として、その後は減少傾向にあったが、1 歳 6 月健診時や各児童センターでの出張読み聞かせ会の実施、子育て支援団体と連携したおはなし会の開催などの取り組み等により、平成 27 年度下半期から増加に転じ、平成 29 年度は前年より 183 人多い 43,638 名の利用があった。 ・ 開館から 40 年が経過し、エレベーターや通路の狭さ、高い書架など平成 28 年 4 月から施行された障害者差別解消法に対応することが困難な施設となっている。また、施設の面積にも限界があるため、蔵書数の拡充・閲覧席の増設・視聴覚資料閲覧用の機器設置など、多様化・高度化する住民ニーズに応えることが難しい。 ・ 平成 27 年度から図書館利用者カードの有効期限を 5 年に設定して、5 年以上図書館を利用していない利用者カードを無効にする作業を進めた結果、平成 29 年度当初の登録者数は、7,203 名となり、平成 26 年度と比べて約 6,000 名減少しているが、この数字が現在図書館を利用している実利用者数であると思われる。 ・ 平成 29 年度 13 歳～29 歳の貸出冊数は 4.1% (平成 28 年度 7.4%) と減少しており、他の年齢層と比べてとても低い。 ・ 高齢化の進展により、60 歳以上の利用率 17.9% も高くなっているため、高齢者のニーズを的確に把握し、対応する必要がある。 ・ 平成 29 年度の利用者数の増加は全体で 0.4% の増加であるが、6 歳以下の利用者が 11.26% と大幅に増加した。 ・ 雑誌スポンサー制度は、平成 29 年 3 月末現在で 11 件のスポンサーが登録されており、一定の成果があった。 ・ 松江市との姉妹都市提携により大口町の歴史に対する関心が高まっている。郷土資料は、その保存を目的として収集されているが、郷土を知り、愛着と誇りを持つために、郷土資料を広く住民に提供することが求められている 		

平成 30 年度
の目標又は
改善策

- ・現在の図書館では面積や設備に限界があるため、住民や利用者の声を反映させながら、多様化・高度化する住民ニーズに応えるため、「人が集まる空間づくり」の検討を推進する。
- ・図書館内にある掲示スペースに幼稚園・保育園児の絵の展示等を企画し、より多くの方に図書館に来てもらえるようにする。
- ・夏休みの図書館利用者は年々減少しているため、まちネットが開催する夏休みチャレンジ講座に参加して、小学生に直接図書館のPRを行う方法を検討する。
- ・図書館が作成している図書館通信やホームページ等の内容の充実を図り、図書館通信やホームページを見た方の満足度の向上を図ると共に、より多くの方の目に留まるように、積極的に情報発信に努める。
- ・おはなし会を複数の子育て支援団体と協働で実施し、多彩なおはなし会を開催すると共に、DVDの上映会も定期的に開催して、子ども達には図書館の楽しさ、本のおもしろさを伝える。
- ・現在特設コーナーを図書館内で3ヶ所設けているが、いずれの企画も好評で、特設コーナーに展示する本が不足するほど人気となっているため、これからも積極的に新しい本との出会いの場となる様に企画を考える。
- ・平成28年度に開催し毎年人気の「移動プラネタリウム」は開催する季節を変えて、その季節に見える星や星座を知ってもらうと共に、プラネタリウム開催に合わせて特設コーナーで、星座やギリシャ神話などの関連本の企画展示を行う。
- ・平成26年から開始した各児童センターでの「出張読み聞かせ」を、平成30年度からは3歳児が集まる「ひろば」の曜日に変更して、子どもには小さいうちから本に興味を持ってもらえるように、保護者には読み聞かせによる子どもとのふれあい等の大切さを伝える活動の強化に努める。
- ・平成27年度から始めた「おはなしサポーター養成講座」を今まで以上に幅広い人を対象として、絵本の楽しさ、読み聞かせの大切さを知ってもらう企画を検討する。
- ・平成27年から開始した「憩いの四季・図書館まつり」は年々参加者も増加して、参加団体も増加している。今後も継続して、今まで図書館を利用したことのない新たな利用者の開拓に努める。
- ・図書館の根幹をなす図書の選書については、利用者により興味を持ってもらえるように本の売上ランキングや本屋の陳列図書なども参考にしながら、利用者ニーズを把握に努める。

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	○「子どもの読書週間おはなし会」 4月21日(土) 子どもの読書週間 4月23日(月)～5月12日(土)
5	○「がんばれ！子ども一日司書さん」対象小学校5・6年（午前・午後 12名） 5月13日(日)・20日(日)
6	○「図書館本のリユース」 6月15日(金)団体・6月16日(土)一般 ●課題図書の出し出し開始 6月1日(金)～8月31日(金)
7	○「夏休みおはなし会」（ボランティア団体） 7月14日(土)
8	○夏休みチャレンジ講座 8月7日(火) まちネット主催 △夏のこども映画会 8月25日(土)
9	図書館特別休館 9月3日(月)～9月13日(木) ○秋のおはなし会（ボランティア団体） 9月22日(土) ●第1回 図書館協議会開催
10	○「読書週間おはなし会」 10月27日(土) 読書週間 10月27日(土)～11月9日(金)
11	○ふれあいまつり図書館参加(絵本等の展示・ペーパークラフト) 11月4日(日) ●第2回 図書館協議会開催(先進地図書館視察)
12	○「世界の夜空を見てみよう!」（定員40名X4回）12月8日(土) ◇「クリスマスおはなし会」（ボランティア団体）12月15日(土)
1	△「冬のこども映画会」図書館所有のDVDの上映 1月12日(土) ◎「絵本作家 とよたかずひこ講演会」1月27日(土)
2	◎「憩いの四季・図書館まつり」仕掛け絵本の展示・おはなし会 2月2日(土)・3日(日) ●第3回 図書館協議会開催
3	◇「春だよ！おはなし会」（ボランティア団体予定）3月16日(土)
毎週	図書館資料の選書(各誌ランキング・書評・リクエスト等から) 図書の開架・書庫への移動・除籍の検討 各児童センターへ訪問してのおはなし会の実施(北・西・南に月1回ずつ訪問)
毎月	月報の作成 みんな集まれおはなし会 月1回開催(第1日曜日) 第2木曜日の職員全体会での情報共有と職務内容等の検討 館内チラシ「図書館通信」の作成 広報おおぐち「図書館だより」作成 雑誌のリユース 月1回開催(第2土曜日)
その他	年報の作成 郷土資料の整理収集 ホームページで行事等の紹介 図書館内での特設コーナー(1月で変更) 中央公民館玄関での特設コーナー(1月で変更)

□3 年間の目標

目標	・利用者の増加					
項目(単位)	H28 計画	H28 実績	H29 目標	H30 目標	H31 目標	H31 目標
図書館利用者	44,000 人	43,455 人	44,000 人	44,200 人	44,400 人	44,600 人
読み聞かせ会等参加者	2,500 人	2,116 人	2,250 人	2,400 人	2,500 人	2,600 人

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等

■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	31,520	32,507	29,272
(内特定財源)		千円	66	54	88
人工	職員	人工	2.0	2.0	2.8
	臨時職員	人工	6.4	6.4	6.4
	計	人工	8.4	8.4	9.2

■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
書籍忘失等代金	14	需要費
雑誌サポーター料	74	需要費
合計	88	

■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
14-2-1 賃借料 複写機	31	△99	複写機の契約を行政課が一括で行うことになり、歳出も行政課で計上

■ 特記事項

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・「人が集まる空間づくり」の建設候補地の絞り込みの検討を図書館・地域協働課で行った。
- ・図書館内にある掲示スペースの有効活用のため幼稚園・保育園児の絵の展示等に幼稚園・保育園に意向を伝えた。
- ・夏休みの図書館利用者の増加を目的にまちネットが開催する夏休みチャレンジ講座「オリジナル絵本を作ろう!」という企画で参加した。
- ・毎月図書館通信を作成し、ホームページ等の更新も頻繁に行い、図書館からの情報発信に努めた。
- ・多彩なおはなし会を開催することと町内の読み聞かせ団体との連携を目的におはなし会を複数の子育て支援団体と協働で実施した。また、DVDの上映会も年2回開催した。
- ・新しい本との出会いの場となる様に、特設コーナーを図書館内で3ヶ所設けて、月に1度企画の変更を行った。
- ・本年度で3回目となる「移動プラネタリウム」は季節により見える星が違うことから開催する季節を本年度は冬に変えて、「冬の夜空は最高! プラネタリウムがやってきた!」と銘打って開催した。、プラネタリウム開催に合わせて特設コーナーで、星・星座の企画展示を行った。
- ・各児童センターでの「出張読み聞かせ」を多様な本を読み聞かせしたいとの思いから3歳児が集まる「ひろば」に変更した。
- ・「おはなしサポーター養成講座」を今まで以上に幅広い人を対象として、絵本の楽しさ、読み聞かせの大切さを知ってもらうために、本年度初めて絵本作家の“とよたかずひこ”さんのおはなし会及び講演会を開催した。
- ・今まで図書館を利用したことのない新たな利用者に図書館を知ってもらうことを目的に、本年度で4回目となる「憩いの四季・図書館まつり」を2月2日・3日の二日間開催した。
- ・図書の選書については、利用者により興味を持ってもらえるように本の売上ランキングや本屋の陳列図書なども参考にしながら、最新の情報を的確にとらえ、利用者ニーズに応えられるようにした。

■ 評価

- ・「人が集まる空間づくり」建設候補地の絞り込みの検討を行い、図書館・地域協働課で提言書をまとめ、提言まで至っていない。
- ・図書館内にある掲示スペースに幼稚園・保育園児の絵の展示等を企画したが、調整が付かず開催に至っていないが、多くの方に図書館に来てもらえるようにするために、来年度以降も幼稚園・保育園に働きかけていきたい。
- ・まちネットが開催する夏休みチャレンジ講座に「オリジナル絵本を作ろう!」という企画で初めて参加したが参加したが、定員一杯の参加者があり、小学生に本に対する興味を持ってもらうことができた。
- ・図書館通信の持ち帰りの枚数は多くなってきており、図書館の利用者の方に浸透してきたと思われる。ホームページは最低月一回内容の更新を行い、図書館からの積極的に情報発信を行った。に努める。
- ・多彩なおはなし会とするために複数の子育て支援団体(4団体)と協働で年6回実施し、285名の参加者があり、子ども達には本の楽しさやおもしろさを伝えことが出来た。また、ディズニーの短編や日本昔話を上映する「子どもえいが会」も夏と冬の2回午前と午後開催して、229名の参加者が

あった。

- ・特集コーナーは好評で、一つの特集コーナーで 50 冊から 100 冊の本の展示を行うが、ほとんど借りられて残っていないという状況が度々見られた。図書館から利用者への新たな本の提案という目的は達せられていると考える。
- ・移動プラネタリウムの開催を季節により見える星が違ふことから冬の開催に変更した。また、本年度は星の見え方は、地球のどの位置から見るかにより、違ふことを体験してもらうために同日の同時刻の大口町・北極・赤道・南極の夜空を見るプログラムとした。143 名の参加者があり、大人の参加者が 44% で大人から子供まで楽しめる事業となっている。
- ・各児童センターでの「出張読み聞かせ」は、今年度は 31 回開催し、901 名の参加者があった。子どもに本の楽しさを保護者には読み聞かせの大切さを理解していただいた。
- ・「おはなしサポーター養成講座」から変更した“とよたかずひこ”ワクワクドキドキおはなし会”は、予想を上回る 149 名の親子での参加者があり、アンケートによるとこれまで図書館の事業には参加されていなかった方が半数で、新しく多くの方々に本の魅力を知っていただく機会となった。
- ・「憩いの四季・図書館まつり」は、昨年度よりまつりに参加する団体数は増加するとともに、図書館の来館者数は、1,369 名で前年度から約 130 名増加した。
- ・事業成果の大きな指標である利用者数は、平成 29 年度 43,638 人から、平成 30 年度 43,447 人と減少したが、台風と特別管内整理期間の増加により開館日数が減少したためであり、1 日平均の利用者数は増加した。また貸出点数は、平成 29 年度 238,931 冊から、平成 30 年度 239,772 冊と増加した。これは、利用者の増加等に寄与していると考えられる結果となっている。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	図書館	No.	02
事業名	人が集まる空間づくり事業		
総合計画の体系	基本目標	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	基本施策	(1)	生涯学習の推進
目的	人が集まり、交流することで生まれる熱気が、大口町をさらに元気で魅力的なまちにすると考え、幅広い世代の「ひと・モノ・情報・文化」が集い、交流し、賑わいが生まれる「元気なまちづくり」の象徴となる空間づくりを検討する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・予算・決算及び経理に関すること ・人が集まる空間づくり検討会に関すること 		<ul style="list-style-type: none"> ・その他必要な業務
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の増加基調が続いている本町ですが、一部には急速な高齢化の進む地域がある。現在のところ地域活動に積極的な住民が多く、支え合い・助け合いのモデル的な地域となっているが、今後さらなる高齢化が進むことを考えると、現在の地域活動を継続・活性化し、さらに全町的に拡大する必要がある。 ・今後は「元気なまち おおぐち」を継続し、未来を担う子どもたちにより良い「おおぐち」を引き継ぐためには、いま若い世代が住みたい・住み続けたいと思う魅力的なまちづくりを総合的かつ戦略的に展開する必要がある。 ・平成26年～27年に実施された各種アンケート調査で、多くの住民から「気軽に交流できる場所がない」、子育て中のお母さんからは「小さな子どもを連れて遊べる場所がない」、高齢者の方からは「時間があるがやることがない」などの意見がある。 ・平日の夕方や休日には多くの子どもたちが健康文化センターの1階ロビーや中央公民館で勉強する姿が見られ、本来の学習スペースではない場所を利用する子どもたちへの同情の声が聞こえてくる。 ・長年にわたり住民の知的欲求を満ちし、生涯学習を支える最も身近な公共施設として、その役割を果たしてきた図書館も、近年の新しい図書館が「貸出し中心」から「滞在型」に移行する中、開館から約40年が経過し、現在の中央公民館3階の限られたスペースでは、「ゆったりとした憩いの時間を過ごす場」、「親子の触れ合いの場」、「人と人の交流の場」といった新たに求められる図書館の役割には、十分に答えることが難しい状況にある。 <p>平成28年 5月 人が集まる空間づくり検討会発足 平成28年10月 提言書を町に提出 平成29年 7月 新たなメンバーを加えて、検討会が再開</p>		

<p>平成 30 年度 の目標又は 改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ “人が集まる空間づくり” は、単に “人が集まる空間” を創るだけでなく、そこに集まった人と人をつなげ、交流や仲間づくりのサポートをし、様々な情報を提供することも重要な役割である。 多くの人やモノ、情報がつながること・交流することで、賑わいの相乗効果生まれ、「新たな大口の元気」を生み出すことが期待できる。人が集まる空間づくり検討会ではこれまでの検討結果を踏まえ、“人が集まる空間づくり” の実現に向けて、継続的・積極的な推進を行う。 今後は、“人が集まる空間づくり” を「新たな大口の元気」につなげるために、より多くの人々の意見を聞き、関連する団体や企業、行政と連携を取りながら、「5つの柱・5つの機能」をより具体化したパーツを作り、加除し、最も効果的な組み合わせを導き出す必要がある。 <p>■今後の必要な作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報やホームページを利用して、より多くの人々の意見を聞く。 ・ 5つの柱・5つの機能を具体化し、パーツを作り、それぞれの関連を分析する。 ・ 具体化したパーツの優先順位を決める。 ・ 優先順位の高いパーツから組み立て、最も効果的な組み合わせを探しながら、パーツの加除を行う。 ・ 最も効果的な組み合わせを導き出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 詳細案を作成し、町及び議会への提案を行う。
-----------------------------------	---

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	○町に対して建設候補地の提言 ●第1回 人が集まる空間づくり検討会開催
7	●第2回 人が集まる空間づくり検討会開催
9	●第3回 人が集まる空間づくり検討会開催
11	●第4回 人が集まる空間づくり検討会開催 ○詳細案の提示 町・議会への説明
1	●第5回 人が集まる空間づくり検討会開催
3	●第6回 人が集まる空間づくり検討会開催
毎週	
毎月	
その他	

□3年間の目標

目標	・「人が集まる空間づくり」の推進					
項目（単位）	H28 計画	H28 実績	H29 目標	H30 目標	H31 目標	H31 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H30 年度	・人が集まる空間づくり検討会 詳細案の提示 町・議会への説明
H31 年度	・人が集まる空間 基本設計
H32 年度	・人が集まる空間 詳細設計
H33 年度	・人が集まる空間 建設または改築

■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	(160)	(400)	280
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工			0.2
	臨時職員	人工			0
	計	人工			0.2

※ 平成 27 年度から図書館運営事業で「新図書館整備調査費」として予算化

■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
8-1-3 アドバイザー報酬費	120	120	
8-1-3 模型・図面作成料	160	160	

■特記事項

平成 28 年度から人が集まる空間づくり検討委員会開始。平成 30 年度は、人が集まる空間づくりの検討の結果を公表できるようにする。
事務局については、地域振興課と協働して実施する。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 地域協働課・図書館で人が集まる空間づくり検討会でのこれまでの検討結果を踏まえ、“人が集まる空間づくり”の実現に向けて、以下の必要な作業を行う。
 - ・ 広報やホームページを利用して、より多くの人の意見を聞く。
 - ・ 5つの柱・5つの機能を具体化し、パーツを作り、それぞれの関連を分析する。
 - ・ 具体化したパーツの優先順位を決める。
 - ・ 優先順位の高いパーツから組み立て、最も効果的な組み合わせを探しながら、パーツの加除を行う。
 - ・ 最も効果的な組み合わせを導き出す。
- ・ 詳細案を作成し、町及び議会への提案を行う。

■ 評価

- ・ 地域協働課・図書館職員で検討を行い、
 - ① “人が集まる空間づくり”検討会で出された候補地の中から条件を点数化して、候補地の検討を行った。
 - ② 候補地の中から3候補地に絞り込んだ。
 - ③ 5つの柱・5つの機能を具体化するための機能や間取りの優先順位を決定した。
 - ④ 間取りを作成し、それぞれの関連や機能性の検討を行った。
 - ⑤ 優先順位の機能や間取りから建設候補地に応じた配置図(案)を作成した。
 - ⑥ 提言書(No2)を作成した。
- ・ 提言書は作成を行ったが、経営会議・議会等への提言が行われていない。